宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2019

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

新しい憲法を制定する推進大会

令和の時代に憲法改正を

憲政記念館

4月23日、東京都千代田区の憲政記念館で新憲法制定議員同盟主催（中曽根康弘会長）の「新しい憲法を制定する推進大会～『自立と共生』にむけて～」が開催され、約1200人が参加し、立ち見が出るほど盛況だった。葛城奈海氏と八木秀次氏の講演に続いて各党・団体代表がそれぞれ憲法改正への考えを語った。

挨拶する下村博文・自民党憲法改正推進本部長＝4月23日、東京都千代田区の憲政記念館

第1部は柳本卓治事務局長の司会で始まり、最初にジャーナリストの葛城奈海氏が次のように講演した。

「初代神武天皇が橿原に都を定めたときに、建国の詔を発せられた。そこに『天の下を覆いて家となさん』との言葉がある。天の下に一つの家族のような国をつくりましょうという意味で、田中智学により『八紘一宇』として広められた。その本来の意味は『世界は一家、人類は皆兄弟』という素敵な理念だ。また、日本書紀には『一』の文字はなく『宇いえ』と為さん」と書いてある。それに従えば『八紘為宇』だ。この建国理念を日本は受け継いできたからこそ、統治国の人々と兄弟のような素敵な関係を築いてきた。それゆえ世界各地に親日的な国がある。第一次大戦後、パリ講和会議の後に、人種差別の撤廃を初めて訴えたのも日本だった。建国理念である『八紘為宇』の理想に立ち返り、大和魂を受け継ぐ憲法改正であってこそ、日本を取り戻す、我々の目指す道となる」

続いて麗澤大学教授の八木秀次氏による記念講演が「憲法改正がなぜ必要か」という題で行われた。

「GHQ民生局次長のチャールズ・ケーディスが後のインタビューで、日本を永久に非武装にしておくことが最大の目的だった、と証言している。日本の敗戦後に戦勝国がつくったポツダム体制では、日本は連合国共通の敵として扱われた。憲法9条2項の戦力不保持、交戦権否認は日本を永久に非武装のままにすることを条文化したものだ。しかしポツダム体制はまもなく終焉する。1950年6月25日に朝鮮戦争が勃発し、朝鮮半島が一時的に共産化されたため、米軍が国連軍の名のもとに戦った。それに伴い日本の占領政策も、懲罰的武装解除から共産主義への防波堤にするための再軍備へと舵をきった。GHQ自ら、日本の再軍備を命じ、50年にはマッカーサー指令により7万5千名の警察予備隊が創設され、海上保安隊の8千名増員を許可した。51年に日本はサンフランシスコ講和条約と日米安保条約を締結し、日米は同盟国となった。

自衛隊明記の憲法改正案について護憲派は、自衛隊は既に合憲なので明記の必要はないという。しかし、明記され憲法上の存在となることで、自衛隊廃止には憲法改正が必要となり、法的根拠が格段に強固になる。今、自衛隊の根拠は自衛隊法と防衛庁設置法で、衆参の過半数で廃止できる」

次いで、雅楽師の東儀秀樹氏が叙情歌「だれもいない海が泣いている」「浜辺の歌」「ふるさと」を演奏。第2部の式典では、愛知和男幹事長が開会宣言し、国歌演奏の後、中曽根康弘会長のメッセージを島村宜伸元農林水産大臣が代読した。

「明治憲法と現行憲法の果たした役割を正当に評価しつつ、新たな時代展望に立ち、日本国民の手による日本国民のための憲法を制定すべき時だ。日本民族の歴史・文化・伝統を普遍的価値に据え、時代感覚を備え、将来立派だと言ってもらえる憲法をつくることが必要だ」

八木秀次麗澤大学教授

次いで、欧米訪問中の安倍首相のメッセージを平沢勝栄衆議院議員が代読した。「憲法改正は立党以来の党是であり、改憲四項目をとりまとめ、運動方針としても、憲法改正への道筋をつける覚悟だ。皇太子殿下がご即位、新しい令和の時代がスタートする。どのような国づくりをするか、未来像に関して真正面から議論すべき時だ」。

各党代表の挨拶で、自民党の下村博文憲法改正推進本部長は「今こそ日本は本当の民主主義国家、国民主権、法治国家として、国民の皆さんと共に憲法改正のうねりを作る時だと思う。自衛隊は国民の9割が合憲だと言うが、憲法学者には違憲論者が多い。これに終止符を打つため、9条2項に自衛隊を明記する。次に自民党案では自然災害に限定し緊急事態条項を提案している。3番目は合区解消で、各県民の声を反映できるようにしたい。4番目は教育の充実で、すべての子供にチャンスを与える。よりよい憲法を目指す流れを令和の時代につくり、早期に実現できるよう努力したい」と強調した。

公明党の魚住裕一郎参議院会長は「公明党は加憲の立場で、地球環境、地方自治、緊急事態など加えるべき価値があれば加えようという考えだ」と、日本維新の会の石井苗子女性局長は「維新の会は、教育無償化、統治機構改革、憲法裁判所設定の三項目の条文を確定した。国民の主権者意識を高め、民主主義を進めるうえでも憲法議論を実現しよう」と訴えた。希望の党の松沢成文代表は「党の理念が憲法改正で、国家の存亡にかかわる安全保障について憲法に何も書かれていない。9条の2項は削除し、新しい人権、地方分権について明記すべきだ」と強調した。

靖国神社で春季例大祭を斎行

英霊に真摯な祈り捧ぐ

東京都千代田区の靖国神社（山口建史宮司）で平成31年春季例大祭が4月21日の清祓から始まり23日の例大祭第2日祭までの3日間、遺族ら1200人が参列し斎行された。遺族らは真摯な祈りを英霊に捧げた。

春季例大祭に合わせ、安倍晋三首相は21日、「内閣総理大臣　安倍晋三」の名で「真榊」と呼ばれる供物を奉納した。その他、今年の春季例大祭には、根本匠厚生労働相や大島理森衆院議長、伊達忠一参院議長もそれぞれ真榊を奉納し、我が国の英霊に敬意を表した。また、23日に超党派の国会議員約70名が靖国神社に参拝した。「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」は、毎年、春と秋の例大祭と8月15日の「終戦の日」にあわせて、靖国神社に参拝している。会長を務める自民党の尾辻秀久元参議院副議長や国民民主党、希望の党、日本維新の会など衆参両院の国会議員が靖国神社の本殿に昇殿、参拝し、皇室からは彬子女王殿下、瑶子女王殿下が参拝された。

春の空が晴れ渡り、暖かい日差しに恵まれた22日。当日祭靖国神社境内には国内外からの多くの参拝客が訪れていた。午後10時、大太鼓が静寂な境内に鳴り響く。拝殿で参列者が待つ中、宮司・神職が本殿所定の座に着く。国歌斉唱に続き本殿内陣のみ扉が開かれ海山の幸が供せられた。

宮司は神前に進み祝詞を奏上、英霊に感謝の誠を捧げた。勅使の筑波和俊賞典と随員が御幣物を奉って参向、本殿所定の座に着く。宮司は御幣物を神前に奉奠。勅使は神前に進み御祭文を奏上。その後、勅使は玉串を奉って拝礼した。

勅使・随員下向後、「鎮魂頌」「靖国神社の歌」が歌われた。次に宮司が玉串拝礼。宮司に続き特別参列者及び崇敬者総代が本殿に進み玉串を奉って拝礼した。続いて一般遺族崇敬者が昇殿参拝した。午後3時、御幣物が撤せられた後、宮司がみ扉を閉じ当日祭は滞りなく修められた。

春季例大祭の期間中、境内では各流派家元による特別献華展やさくらそう展などの奉祝行事も繰り広げられた。能楽堂では各種奉納芸能が行われ、21日から23日にかけて日本舞踊、剣舞、居合術、古武道、仕舞、江戸芸、講談、浪曲、演奏、合唱、琉球舞踊、奇術などの日本古来の芸能等が奉納芸能として大勢の参拝者が見守る中、能楽堂で奉納された。

靖国神社は明治2年に明治天皇の思し召しによって建てられた東京招魂社が始まりで、明治12年に「靖国神社」と改称されて今日に至っている。「靖国」という社号も明治天皇の命名によるもので、「祖国を平安にする」「平和な国家を建設する」という願いが込められている。

御祭神として嘉永6年（1853）以降の明治維新、戊辰戦争、西南戦争、日清戦争、日露戦争、満洲事変、第二次世界大戦などの国難に際して、国を守るために尊い生命を捧げた246万6千余柱の方々が身分や勲功、男女の別なく祖国に殉じた尊い神霊（靖国の大神）として祀られている。

下向する勅使の筑波和俊賞典＝4月22日、東京都千代田区の靖国神社

社説

過去は未来で変えられる

タイトルは5月5日、NHK総合の「SONGS OF TOKYO」でのYOSHIKIさんの言葉。

ゲストのアルゼンチン人のファンに「音楽以外の趣味は何か」と聞かれ、「すべてが音楽につながっていて、境がない」と答え、「趣味よりもっと大切に考えているのが慈善活動だ。それは自分のためでもある。人からの感謝の言葉で、自分の存在意義を見つけられる。人々を支える音楽を作るのが自分の使命だと思った。音楽も慈善活動も同じだ」と続け、慈善活動を始めたきっかけを語った。

生きる意味を知る

YOSHIKIさんは11歳の時に、34歳の父を自殺で亡くし、平成10年にX JAPANのギタリストのHIDEが急逝したことで精神的に落ち込み、うつのようになって人に接することができず、家に引きこもって、表舞台には一切上がらずにいた。

そんなとき、上皇陛下の「天皇陛下御即位十年をお祝いする国民祭典」の奉祝曲の制作依頼を受け、平成11年11月12日に皇居前広場で行われた式典で作曲したピアノ協奏曲「Anniversary」を演奏した。そこで受けた歓声が再起の契機となり、人を助ける活動を始め、そこに生きる意味を見いだしたという。以後、積極的な慈善活動を内外で行っている。

YOSHIKIさんは「だれにでも生まれてきた使命というものがあり、それを探すのが人生ではないかと思う。メンバーを失って人生は終わったと感じ、自分には音楽しかないが、ステージに立つ自信がなくなった。そんなとき、たまたま奉祝曲の作曲依頼を受け、何かに導かれたかのように感じ、最後の力を振り絞って書いた。一つのメロディーを決め、喜びは長調で、悲しみは単調で表現し、明るい未来に向かって力強く終わるように作曲した。そして皇居前広場のステージに立ったとき、歓声を浴びて、ぼくの生きる道はステージなんだと改めて感じた。人は生かされているのだと思う。生かされている限りは、頂いた生命を思い切り生きていきたい」と語り、「過去は未来で変えられる（The future can change the past）」と結んだ。悲しみや苦しみの過去も、未来への希望で書きかえることができるのである。

生物学者の福岡伸一青山学院大学教授は、生命は機械ではなく流動体で、常に変わり続けていると言う。細胞は生まれ、死に続け、約3カ月で体のほぼすべてが入れ替わるので、その意味では個人の継続性はない。それを維持させているのは、記憶であり、周りの人や環境とのかかわりである。

とりわけ、人は人とのかかわりを通して自分とは何か、気づかされ、考えさせられる。その積み重ねが人を成長させ、社会を形成してきたのである。「象徴とは何か」を求め、「全身全霊」で公務に祭祀に取り組んでこられた上皇陛下との出会いで、それを感じた人たちも多い。天皇とは、そのお方に触れることで、日本人としての私とは何か、一番考えさせてくれる存在かもしれない。

日本の未来に希望を

上皇・上皇后両陛下が探求してこられた「象徴」としてのあり方を、今上天皇・皇后両陛下もさらに探求し続けていかれる。国民の多くが、その歩みを共にしたいと思っていることだろう。そうした天皇をいただいている国民であることが、いかに貴重か、令和の時代に再考してみたい。

グローバリズムが進展する一方で、大国が自国中心主義を唱え、排外主義が各国国民の間に高まっている。そんな時代に、留学経験のある両陛下が、日本の行くべき道をどう表現されるだろうか。

イギリスの国民投票によるEU離脱の選択を見ても、賛否が拮抗する状況では民主主義はうまく機能しないことがよく分かる。諸外国と比較しても、天皇という存在が日本の民主主義に安定をもたらしており、君主制と民主主義は矛盾しないばかりか、むしろ相乗効果があると言えよう。国民一人ひとりも日本人としての生き方を探求し続けることで、両陛下と共に、日本の未来に希望を見いだしていきたい。

灯

「パウロとバルナバとは大胆に語った。『神の言は、まず、あなたがたに語り伝えられなければならなかった。しかし、あなたがたはそれを退け、自分自身を永遠の命にふさわしからぬ者にしてしまったから、さあ、わたしたちはこれから方向をかえて、異邦人たちの方に行くのだ。主はわたしたちに、こう命じておられる、〝わたしは、あなたを立てて異邦人の光とした。あなたが地の果までも救をもたらすためである〟』。

異邦人たちはこれを聞いてよろこび、主の御言をほめたたえてやまなかった。そして、永遠の命にあずかるように定められていた者は、みな信じた。こうして、主の御言はこの地方全体にひろまって行った。」（使徒行伝13・46―49）

2000年前、復活されたイエスとの出会いを通して彼らこそが主キリストであると確信した弟子たちは、福音を携えて同胞たちの所に出掛けた。彼らがそれを受け入れない時には、悲しみをこらえながら異邦人の所へと出掛けた。こうして生命の福音は、人種、民族を超えて遍く世界に広がっていった。（1）

天地

令和の出典でにわかに人気が出ている万葉集に、豆を詠んだ歌が1首だけある。「道の辺の茨（うまら）のうれに、延（は）ほ豆の、からまる君をはかれか行かむ」。道端のうまら（ノイバラ）の先に絡みつく豆のように、私に絡みつく君をおいて別れゆく…という意味。天平勝宝7年（755）2月に、上総国（かずさのくに）の防人を引率する役人の茨田連沙弥麻呂（まむたのむらじさみまろ）が進上したとされる、防人に選ばれた丈部鳥（はせつかべのとり）が、「行かないで」と絡みつく妻との別れを悲しむ歌。令和の基になった梅の花の下での歌会は、唐侵略の危機が去り、防人が不要になった時代に催された▼万葉集に出てくる豆は野生のもので、野によく見られるカラスノエンドウかもしれない。そう思うのは、ここ数日、天地子は小麦畑のカラスノエンドウ抜きに悩まされたから。熟すると黒いさやからはじける実が小麦に入ると、等級が落ちてしまう。多すぎると、金のかかる色選機に掛けなければ出荷できない▼除草剤は散布したが、時期が遅かったらしい。土地が悪く、穂の薄い田んぼほど雑草が繁茂しているので、無駄な汗を流す思いにもなる▼そんなときこそ、これも修行だと、長く単調な作業に思いを込める。雑になると、自分の心を荒らしてしまう。健康長寿のための農業だと考えてもいい。しかし、5年、10年後にはどうなるのか。平均年齢が70代半ばの仲間のぼやきは絶えない。

宗教新聞社
本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
四六判296頁（本体1500円＋税）
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン
やさしい和訳
監訳著・水谷 周
訳補完・杉本恭一郎
2019年2月発刊 定価 2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421